



# CHAPTER 7

## ポーリング間隔の定義

管理対象デバイスは、Cisco Prime CM データベースとデバイス データを同期するため、定期的にポーリングされます。Cisco Prime CM ポーラー マネージャは、次のポーリング間隔をサポートしています。

- **System Status** ポーリング間隔 Cisco Prime CM :
  - SNMP および HTTP (HTTPS) を使用して、CPU およびメモリの使用率、エンドポイントおよびマルチポイント スイッチのペリフェラル ステータスを収集します [Cisco C および Ex シリーズ エンドポイント向け]。
  - RTMT を使用して、コールおよびセッション コントローラから CPU およびメモリのデータを収集します。
  - Real-Time Monitoring Tool (RTMT) を使用してコールおよびセッション コントローラから、また HTTP (HTTPS) を使用してマルチポイント スイッチとアプリケーション マネージャからサービス ステータスを収集します。
- **Call Statistics** ポーリング間隔 : Cisco Prime CM は、エンドポイント デバイスおよび会議デバイスからそれぞれ SNMP および HTTP (HTTPS) を使用して、遅延、ジッター、パケット損失、解決などのコール統計データを収集します。

このデータは、セッションが進行中の場合のみポーリングされます。
- **Interface Statistics** ポーリング間隔 : Cisco Prime CM は、ネットワーク デバイス インターフェイスに関するデータを収集します。データとしてインターフェイスのステータス、使用率、エラーなどがあります。Interface プロファイルは SNMP を使用してデバイスをポーリングします。

このプロファイルは、自動または手動でトラブルシューティング ワークフローがトリガーされたときにだけ使用されます。
- **Flow Statistics** ポーリング間隔 : Cisco Prime CM は、mediatrace および HTTP を使用して、ネットワーク デバイスからパケット フロー関連のデータを収集します。ポーリングは、Cisco Mediatrace がネットワーク デバイスで有効な場合のみ実施されます。

このプロファイルは、自動または手動でトラブルシューティング ワークフローがトリガーされたときにだけ使用されます。
- **Scheduled Session** ポーリング間隔 : Cisco Prime CM は、HTTP (HTTPS) を使用して、管理アプリケーションからスケジュール済みセッション データを収集します。
- **Session** ポーリング間隔 : Cisco Prime CM は、HTTP (HTTPS) を使用して、会議デバイスからマルチポイント (アドホックおよびスタティック) セッション データを収集します。
- **Endpoint Registration** ポーリング間隔 : HTTP を使用して、コールおよびセッション制御デバイスから TelePresence および IP Phone 登録データを収集します (RIS も Cisco Unified CM に使用されます)。

- **Ad hoc Session** ポーリング間隔：コールおよびセッション制御デバイスからポイントツーポイントおよびマルチサイトセッションデータを収集します。Cisco Prime CM は JTAPI for Cisco Unified CM および HTTP for Cisco VCS を使用します。

**Reachability**：管理対象デバイスが到達可能かどうかを確認するため、ICMP ping 動作が実行されます。ポーリングが3度連続して失敗すると、到達不能通知が生成されます。この通知のために到達不能アラームがトリガーされます。

初回のディスカバリ中に実行された ICMP ping 動作は、デバイスのアクセシビリティを確認します。ポーリングの間に実行される ICMP ping 動作は、管理対象デバイスの到達可能性を確認します。このポーリングは、ネットワーク デバイスを除くすべての管理対象デバイスで90秒ごとに実行されます。

表 7-1 に、ビデオ コラボレーション デバイスのデフォルトのポーリング値としきい値を示します。会社のビデオセッションの頻度およびタイプ（アドホックまたはスケジュール済み）に基づいて、ポーリング間隔を定義する必要があります。

表 7-1 デフォルトのポーリング値としきい値

ポーラー プロファイル	エンドポイント	コールおよびセッション制御	会議	管理	ネットワーク デバイス
System Status ポーリング間隔	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco TelePresence System 500、1000、または 3000 シリーズで 5 分。</li> <li>• Cisco C または Ex シリーズで 30 分。</li> </ul>	20 分	5 分	20 分	1 分
Call Statistics ポーリング間隔	5 分	—	5 分	—	—
Endpoint Registration ポーリング間隔	—	15 分	—	—	—
Ad hoc Session ポーリング間隔	—	15 分	—	—	—
Session ポーリング間隔	—	—	30 分	—	—
Scheduled Session ポーリング間隔	—	—	—	6 時間	—
Interface Statistics ポーリング間隔	—	—	—	—	1 分
Flow Statistics ポーリング間隔	—	—	—	—	1 分



(注)

エンドポイントと IP Phone のステータスが、[Endpoint Monitoring] ページで不整合になる場合があります。これは、エンドポイントが5分ごとにポーリングされる（デフォルト）のに対し、コールおよびセッション制御デバイスは15分ごとにポーリングされる（デフォルト）からです。ポーリングが完了すると、エンドポイントと IP フォンのステータスが一致します。

## しきい値

ネットワーク デバイスの CPU およびメモリ使用率のしきい値を定義できます。Cisco Mediatrace 対応デバイスについては、[Rx Packet Loss] および [Average Period Jitter] のしきい値を設定できます。値がしきい値を超えると、トラブルシューティング ワークフロー中、情報アイコンバッジがネットワーク デバイスに表示されます。このワークフローを使用して、問題が発生している正確な場所をさらに分析して特定できます。

DSCP (DSCP; DiffServ コード ポイント) 設定を使用して、ルータの QoS を確認することもできます。これにより、パケットを分類できます。パケット フローが定義された DSCP 値と一致しない場合、トラブルシューティング ワークフロー中、情報アイコン バッジがネットワーク デバイスに表示されません。

## CTS-Manager 会議の設定

CTS-Manager で、スケジュール済み時刻前にセッションを開始するよう設定している場合、Cisco Prime CM で同じ時刻を設定する必要があります。そうしないと、Cisco Prime CM に、スケジュール済み時刻前に開始したスケジュール済み会議の 2 つのセッションがリストされます。つまり、スケジュール済み時刻の 5 分前にセッションを開始するよう設定している場合、同じ時刻を [Device Monitoring Configuration] ページで設定する必要があります。

すべてのデバイスのポーリング値およびしきい値を Cisco Prime CM で定義するには、次を実行します。

---

**ステップ 1** [Administration] > [Device Monitoring Configuration] を選択します。

[Device Monitoring Configuration] ページが表示されます。

**ステップ 2** ポーリング値およびしきい値を定義します。

**ステップ 3** [Save] をクリックします。

これらのポーリング プロファイルはジョブをトリガーします。[Administration] > [Job Management] ページで、ポーリング ジョブをモニタできます。Polling というプレフィックスが付いたすべてのポーリング ジョブが開始します。クイック フィルタを使用して、すべてのポーリング ジョブをフィルタリングできます。

デバイスのステータスはポーリング ジョブをもとに更新されません。ただし、デバイスが到達不能の場合、イベントがトリガーされます。たとえば、Cisco Prime CM 内のデバイス クレデンシャルが不正な場合、Device is not accessible from Collaboration Manager がトリガーされます ([Monitoring] > [Events])。

---

